

記者懇談会 2015.7.8.18:30
日本記者クラブ

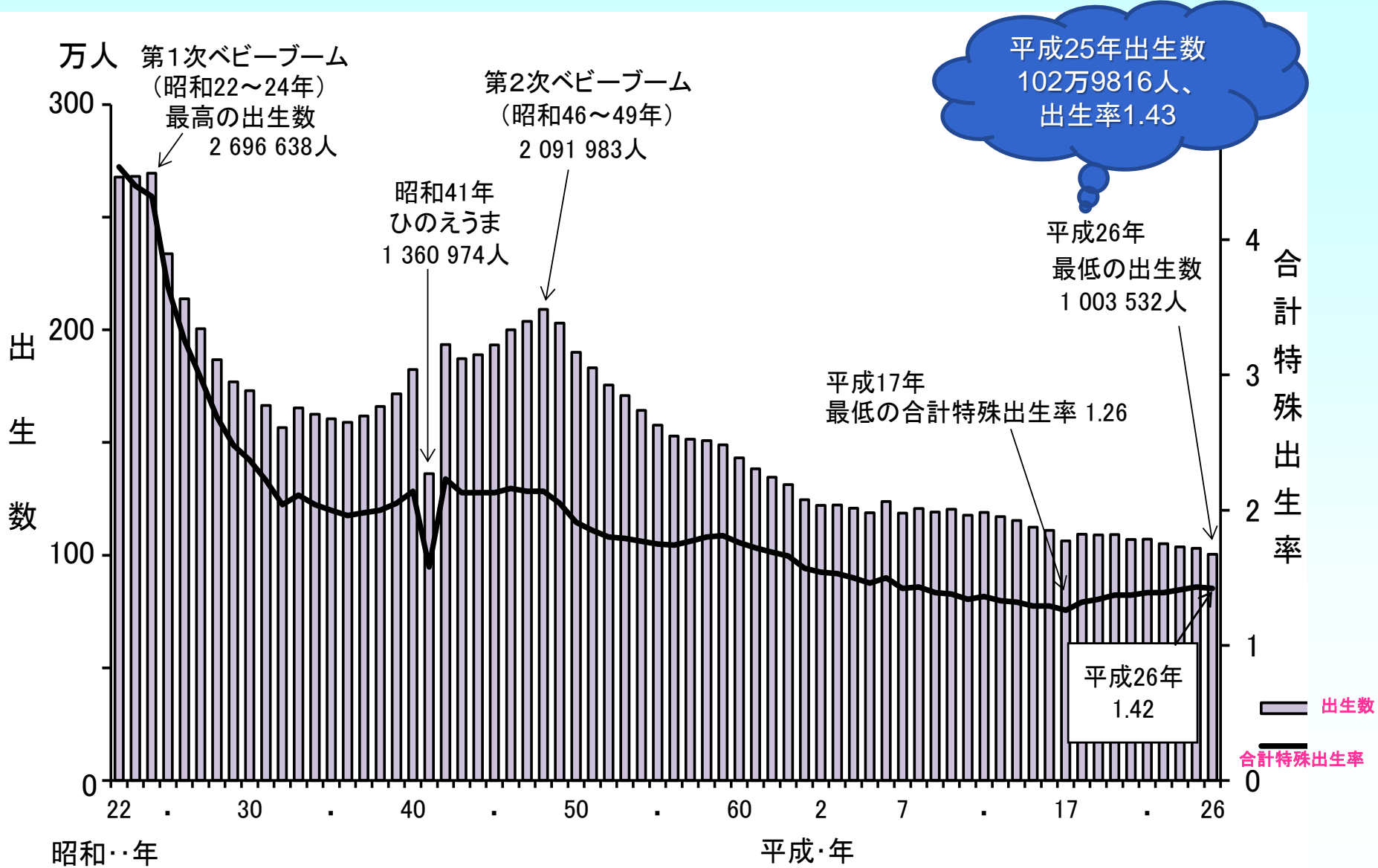
**「性教育 15歳以下の
望まない妊娠・出産ゼロを目指す」**

**日本産婦人科医会
女性保健部
安達 知子**

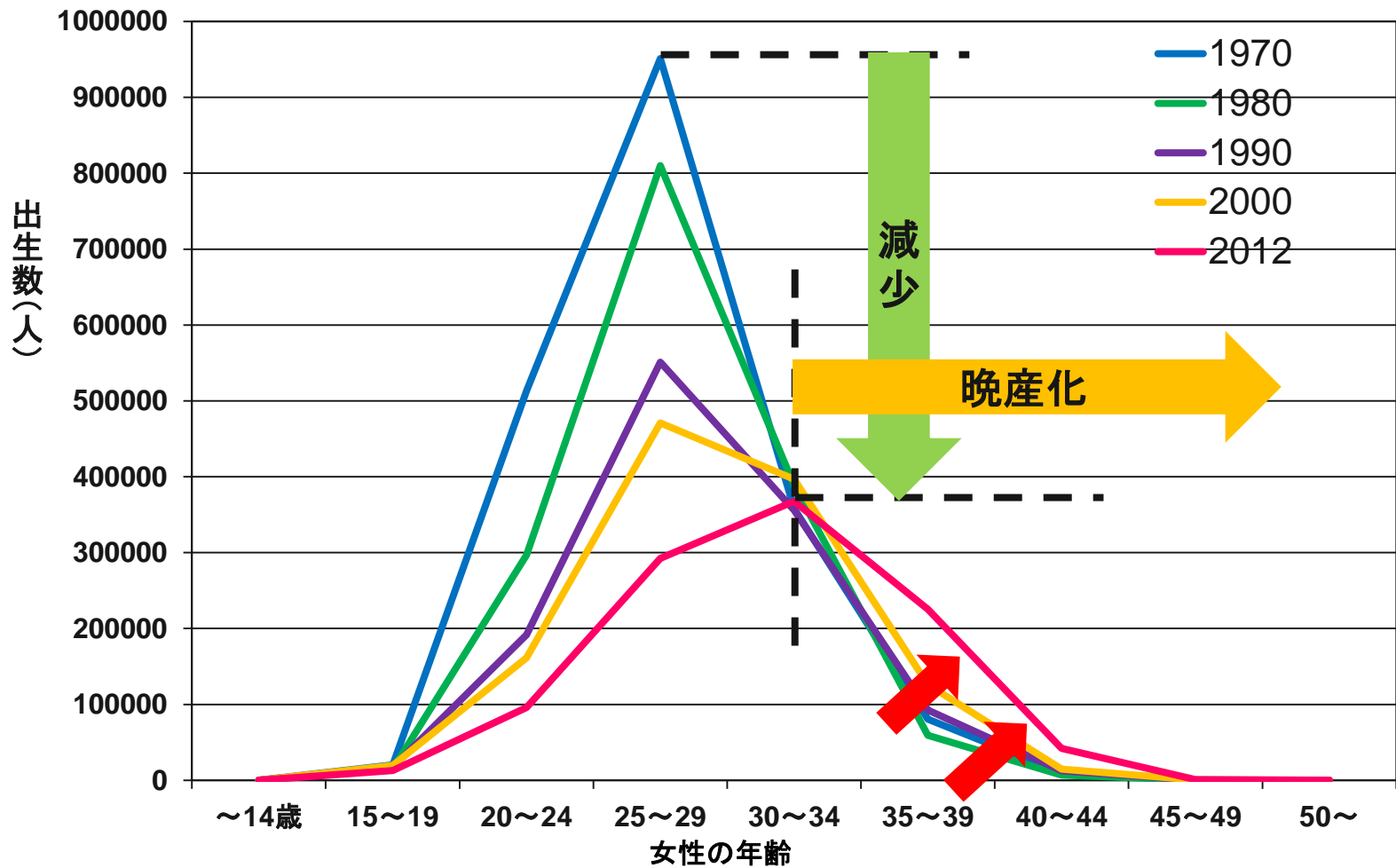
本日の話題提供

- ① 15歳以下の妊娠・出産の実態は？
- ② 若年女性の望まない妊娠ゼロを目指す方策を探る
- ③ 全国の性教育に携わる現場の声「アンケート調査の概要より」

出生数および合計特殊出生率の年次推移



出生数と出産時期の変遷



40年前に比較して出産数自体も減少しているが、晩婚化にともなう晩産化が特徴的である。

母の年齢別 出生数の年次推移

厚生労働省人口動態統計

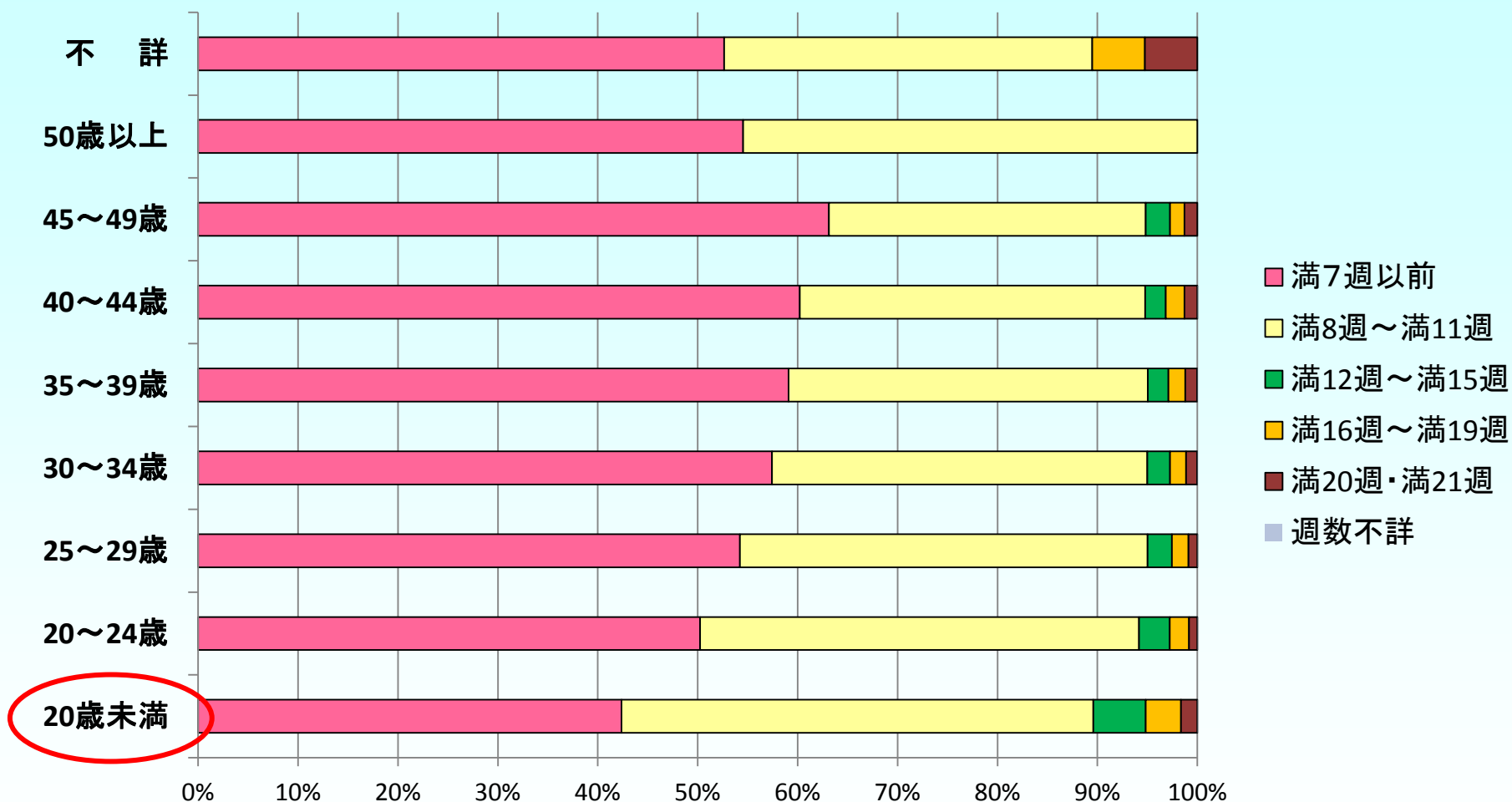
母の年齢	1975	1985	1995	2005	2010	2013
総数	1 901 440	1 431 577	1 187 064	1 062 530	1 071 304	1 029 816
● ~14歳	9	23	37	42	51	51
● 15~19	15 990	17 854	16 075	16 531	13 495	12 913
20~24	479 041	247 341	193 514	128 135	110 956	91 250
25~29	1 014 624	682 885	492 714	339 328	306 910	282 794
30~34	320 060	381 466	371 773	404 700	384 385	365 404
35~39	62 663	93 501	100 053	153 440	220 101	229 741
40~44	8 727	8 224	12 472	19 750	34 609	46 546
45~49	312	244	414	564	773	1 069
50歳以上	7	1	-	34	19	47
不詳	7	38	12	6	5	1

若年者の出産数、中絶数と中絶率 (2013年度全国)

年齢(歳)	出産数A	中絶数B	中絶率B/(A+B)%
<15	51)235	318)1,323	86%)85%
15	184	1,005	85%
16	759	2,648	78%
17	1,862	3,817	67%
18	3,540	4,807	58%
19	6,568	6,764	51%
<20	12,964	19,359	60%
20-24	91,250	40,268	31%
全年齢	1,029,816	186,253	15%

出典：厚生労働省平成26年度衛生行政報告例
平成26年人口動態統計

年齢階級別人工妊娠中絶週数の比較 (2013年度)



週数別人工妊娠中絶手術の割合 (%)

出典:平成25年度衛生行政報告例

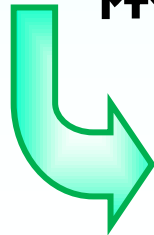


若年者ほど、体に負担のかかる中絶手術を受けている

リプロダクティブヘルスを考える上で、思春期の保健は、女性の生涯の健康の観点から最も重要

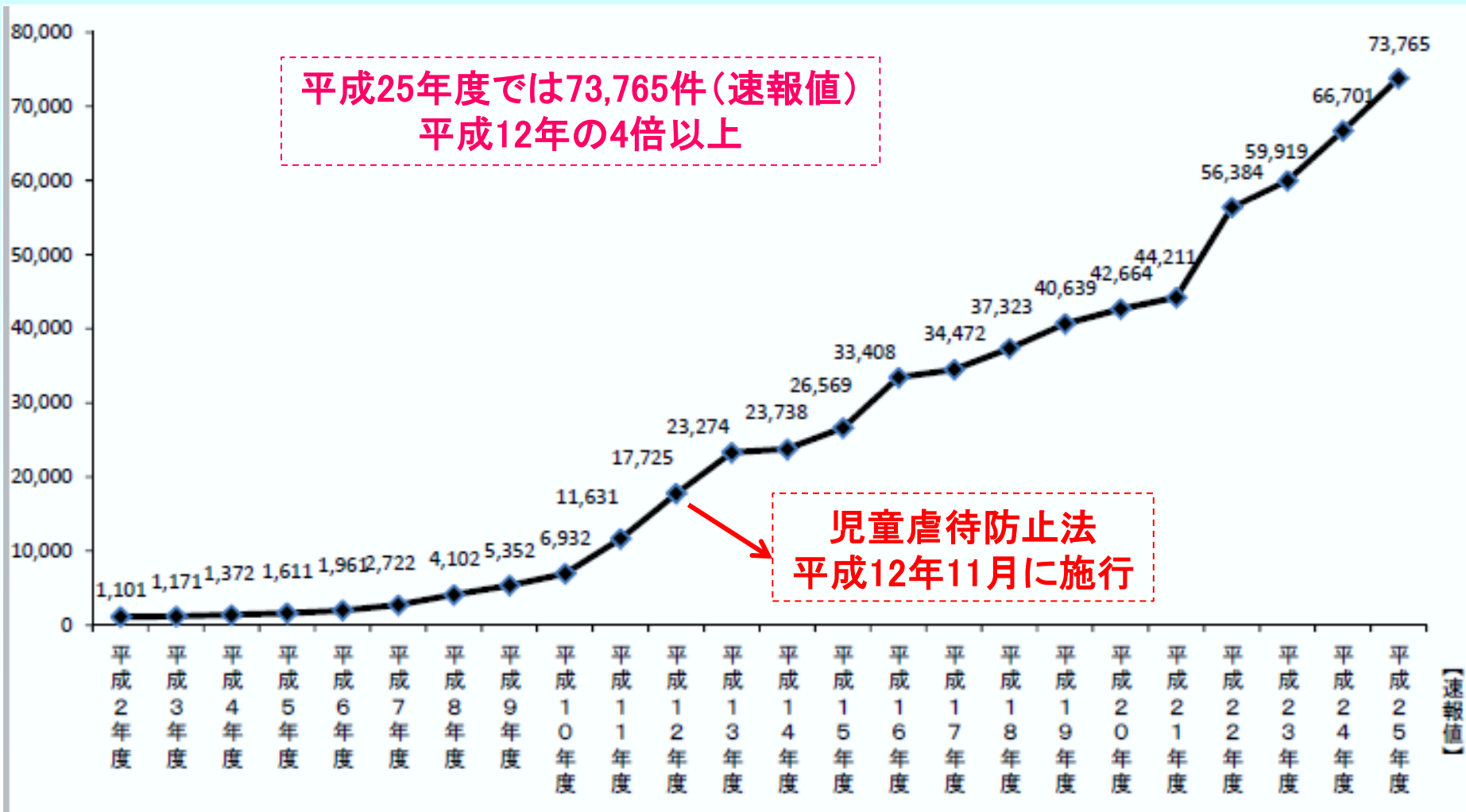
思春期の望まない妊娠の結果は？

- 人工妊娠中絶
- 出産→ 乳児院・里子へ出す場合も
- 学業の中断(退学/停学)
- パートナーとの関係の悪化/離別
- 体と心の痛み



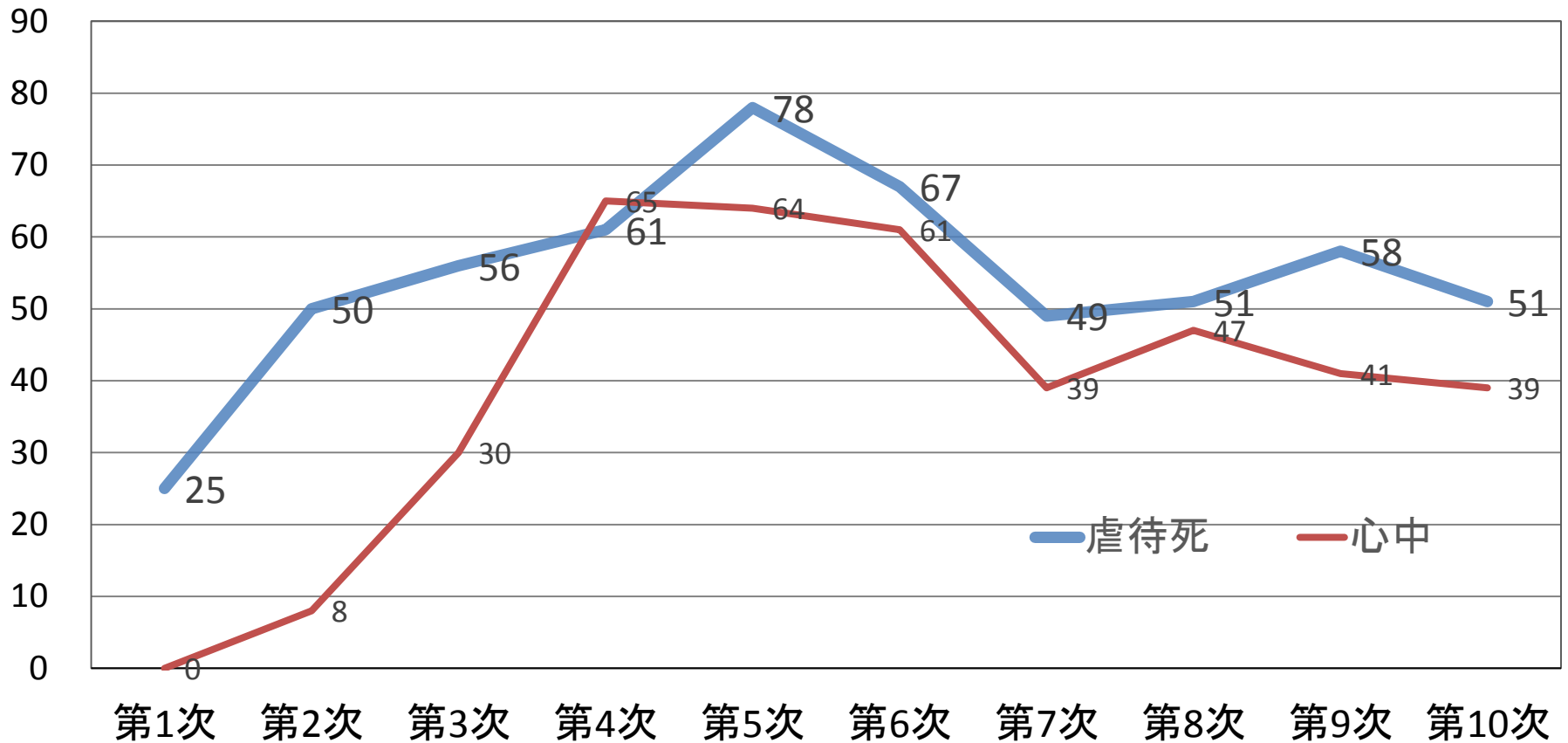
望まれないで生まれてきた子は虐待のリスク

全国児童相談所での児童虐待相談対応件数



虐待による死亡数の推移

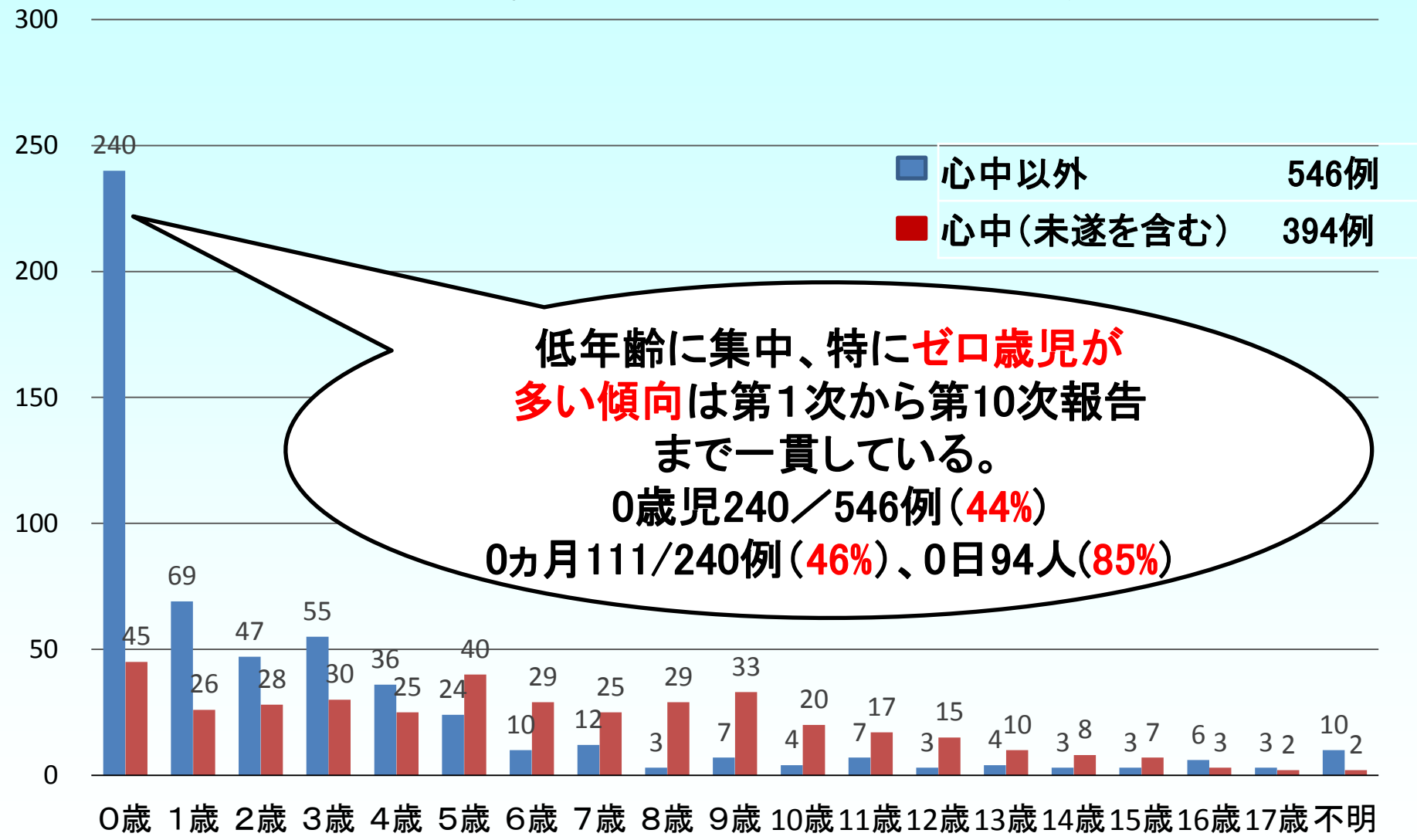
社会保障審議会児童部会児童虐待等検証専門委員会第1～10次報告:2014.9



○ 児童虐待によって子どもが死亡した件数は、高い水準で推移
10次報告:2012.4.1～2013年3.31の1年間に発生した件数を対象

死亡した子どもの年齢

社会保障審議会児童部会児童虐待等検証専門委員会第1～10次報告



0日・0か月児 死亡事例の加害者

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第10次報告)より

区分	0日		0か月		合計	
	人数	構成割合(%)	人数	構成割合(%)	人数	構成割合(%)
実母	88	93.6	13	76.5	101	91.0
実父	1	1.1	2	11.8	3	2.7
実母・実父	4	4.3	2	11.8	6	5.4
不明	1	1.1	0	0	1	0.9
計	94	100	17	100	111	100

最も多いのが、10代の母親である。

0日、0ヵ月虐待死の妊産婦では

- 望まない妊娠 約70%
 - 10代出産の経験 約40%
 - 妊婦健診の未受診
 - 母子健康手帳未発行
- 約90%
第10次報告のみ

虐待を予防するためには、
望まない妊娠を防ぎ、
避妊や家族計画を若い時
から考えることが効果的

虐待による111名の死亡例の検証

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第10次報告)より

【支援策】

- 妊娠から出産に至るまで、切れ目のない相談・支援が行える体制の整備と相談窓口に関する周知
- 妊婦が産科医療機関を受診した機会を捉え、切れ目なく行政サービスに結びつくよう医療機関と行政との連携を強化
- 妊婦やその家族に対して、行政サービスや相談の場、養子縁組や里親制度に関する適切な情報提供
- 思春期からの性に関する正確な情報提供

「第7回男女の生活と意識に関する調査」

一般社団法人 日本家族計画協会 北村邦夫

層化2段無作為抽出法で抽出した16歳
～49歳男女3,000人のうち長期不在、
転居、住居不明を除く2,676人を対象と
した有効回答数 **1,134人(42.4%)**

調査期間 平成26年9月11日(木)～9月28日(日)

性に関する事柄について、15歳までに知るべきと思う割合(%)

「男女の生活と意識に関する調査」

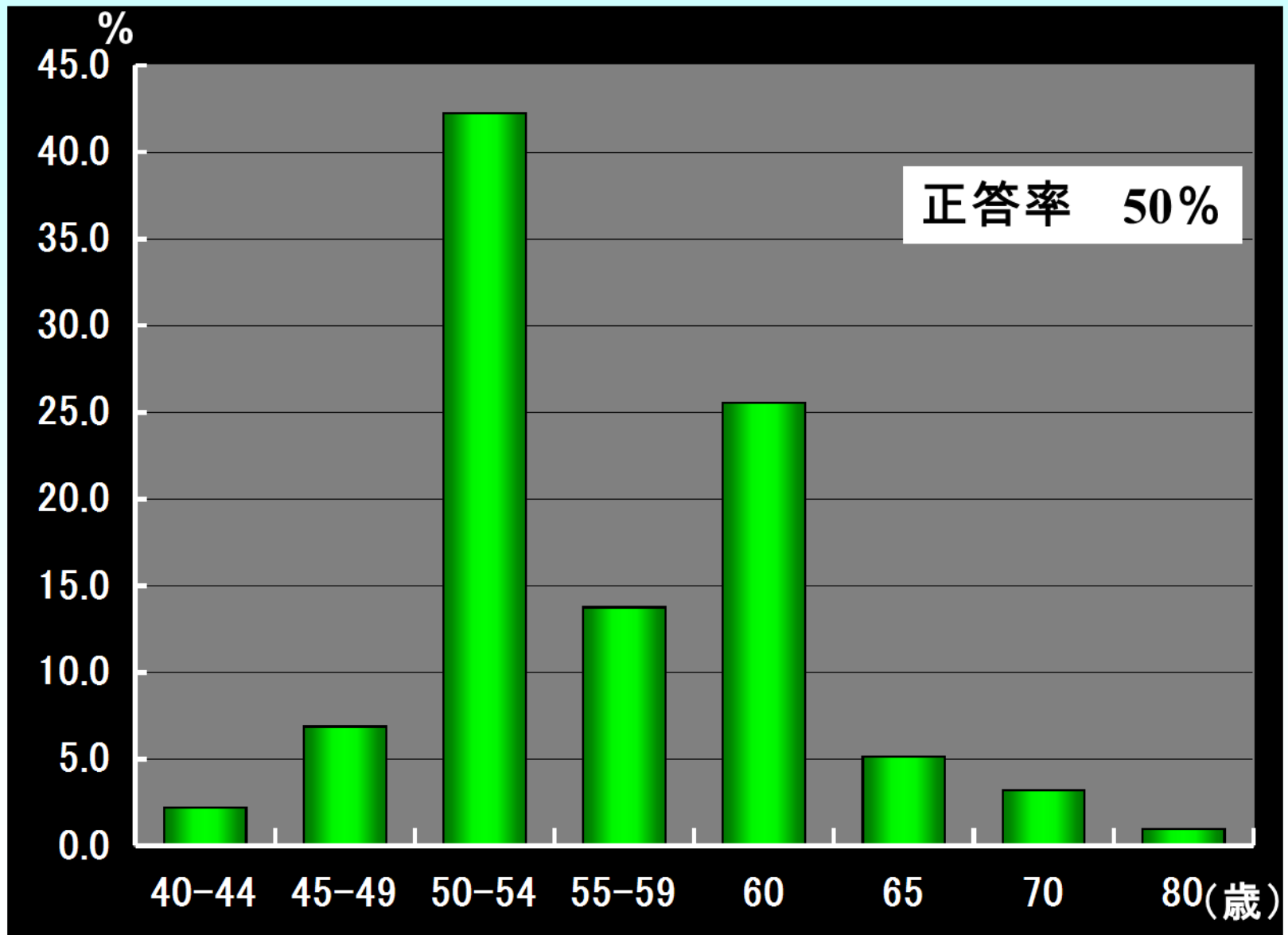
年	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014
男女の心と身体の違い	90.3	88.7	92.7	93.7	92.6	91.4	91.3
二次性徴、月経、射精などのしくみ	90.8	89.6	94.1	95.0	93.0	92.1	87.0
受精、妊娠、出産、誕生のしくみ	86.7	84.9	90.6	91.9	89.8	87.3	70.7
セックス(性交渉)	-	65.7	73.2	74.9	73.4	69.1	71.9
避妊法	75.0	70.1	76.5	77.2	76.3	73.9	60.7
人工妊娠中絶	66.8	61.4	66.9	68.0	65.1	62.5	74.0
エイズとその予防	75.1	71.8	78.1	77.0	77.1	75.1	72.5
エイズ以外の性感染症とその予防	72.3	68.8	73.5	74.7	74.2	72.7	65.2
コンドームの使い方	62.8	61.8	68.7	68.5	67.2	65.6	56.5
多様な性のあり方	50.6	50.8	55.7	57.5	59.4	57.7	64.1
性的被害の対処法	61.0	60.4	66.1	67.7	66.2	65.9	77.9
男女間の平等や助け合い	73.1	75.4	81.5	80.0	80.4	79.2	58.0
結婚	49.9	46.6	57.5	58.6	59.5	60.5	54.2
離婚	45.7	41.7	52.7	53.7	56.1	55.3	83.7
人と人とのコミュニケーション	76.0	80.2	84.7	85.9	86.4	84.1	74.7
性に関する倫理や道徳	70.9	72.1	76.2	78.1	76.8	73.4	91.3

学習指導要領からみた 中学校における性の健康教育-妊娠関連

- 中学校卒業までに、性的接触という曖昧な言葉は教科書にも記載されているが、性的接触の意味や、どのようなことがあると妊娠の可能性を考えなくてはならないか、については教えない
- 避妊の意義や避妊法については教えない
- 性感染症予防にコンドームという言葉はあるが、コンドームと避妊とは結びつけず、正しい使用方法については教えない
- 人工妊娠中絶術、およびその手術が母体保護法で規程されていることを教えない
- 緊急避妊法の存在については教えない
- 正常妊娠の他に、異常妊娠があることは特に教えない
- 妊娠適齢期と不妊、また、若年妊娠や高年妊娠のリスクなどについて教えていない…閉経についても特に教えてない

何歳で閉経すると思いますか？

ある女子大1, 2年生407名でのアンケートから



若年女性の妊娠していないとの思い込み

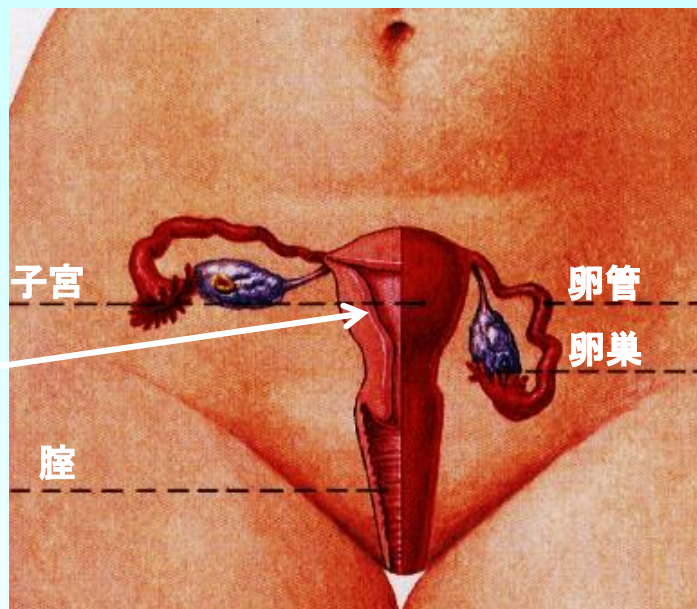
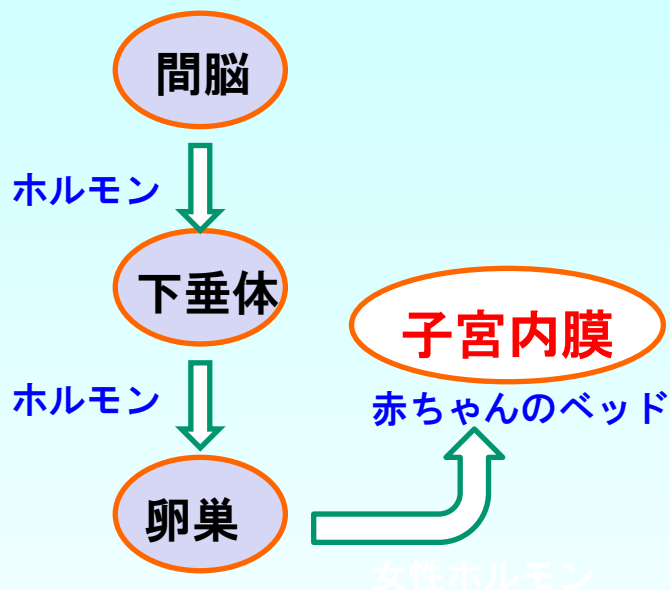
- まさか自分が妊娠するとは思わなかった
- つわりがなかった
- 月経中しか性交を持っていなかった
- 彼がコンドームを使用していた
- 今まで、性交中絶法(膈外射精)でうまくいっていた
- 月経周期が不順だったので、無月経でもとくに異常とは思わなかった
- 少量の出血があり、月経が来ていると思っていた
- 太ったと思っていた
- 緊急避妊ピルを服用した

若年女性への性教育

参考資料

初めての月経=初経

-初経は大人の女性になるスタートライン-



- 月経を嫌がらないで上手に付き合ってほしい。
- 15歳までに初経が来ない時、7日以上のだらだらした出血、月経前・中・後のつらい症状は、産婦人科医に相談してほしい
- 今まであった月経が3カ月間止まっているときは、養護の先生や産婦人科医に相談してほしい-ダイエットによる体重減少、激しいスポーツなど。
- 何より、性交があって、月経が来ないときは妊娠を考えて検査してほしい
- 大切なイベントと月経周期の不調の時期を重ねないことができることを知っていてほしい。

妊娠は、性交をしないと起こらない

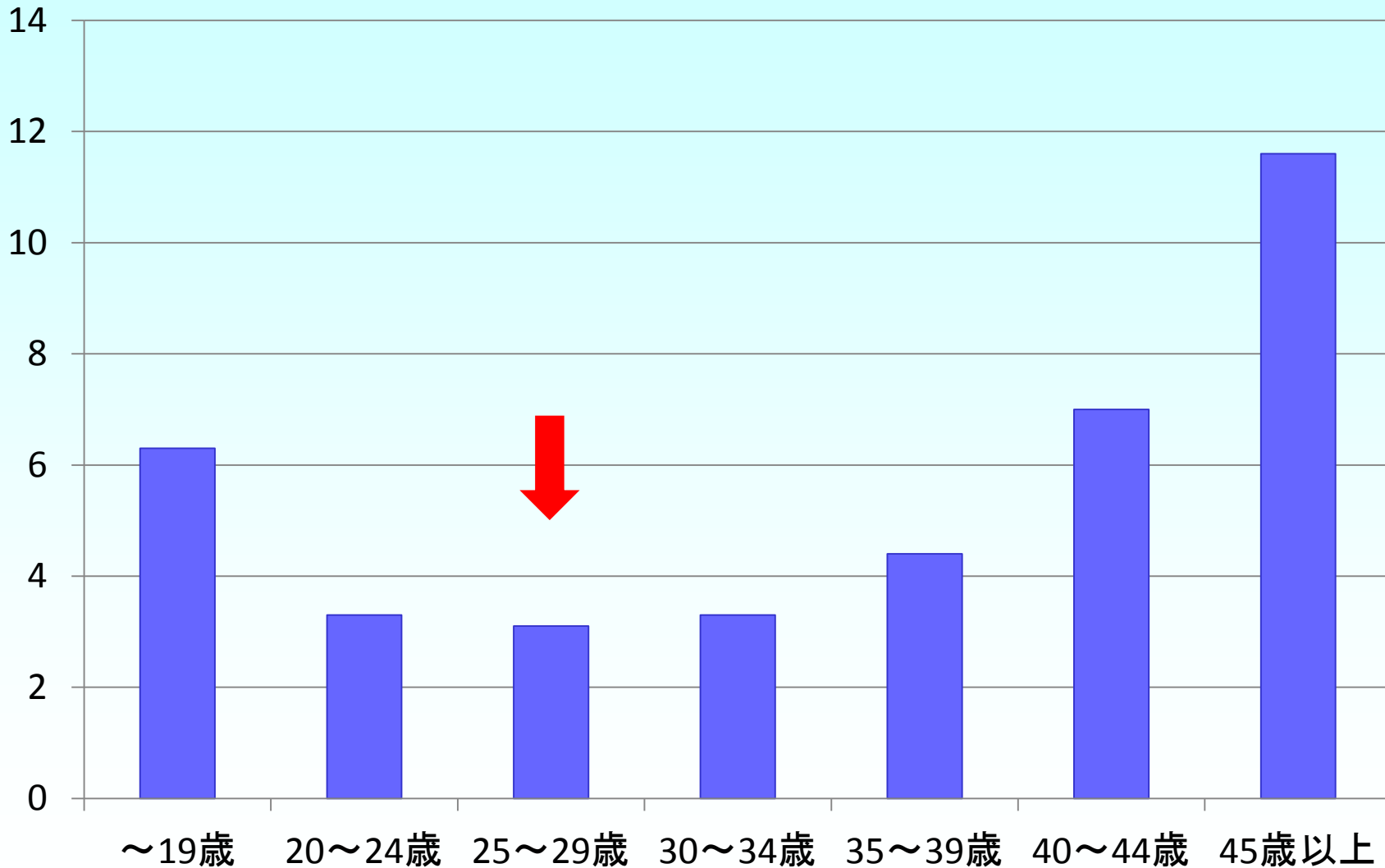
逆に、性交を持ったらいつ妊娠してもおかしくない。

性交を持つと、女性の体内に男性の精子が入る。これが女性の性器を通して、子宮と卵巣の橋渡しをしている卵管の中で排卵した卵子と出会くと、受精し、妊娠する可能性がある。

子供を産むというのは親になり子供を育てるということ。経済的にも社会的にも責任をもって子育てできない時期では、妊娠しないように行動しよう。

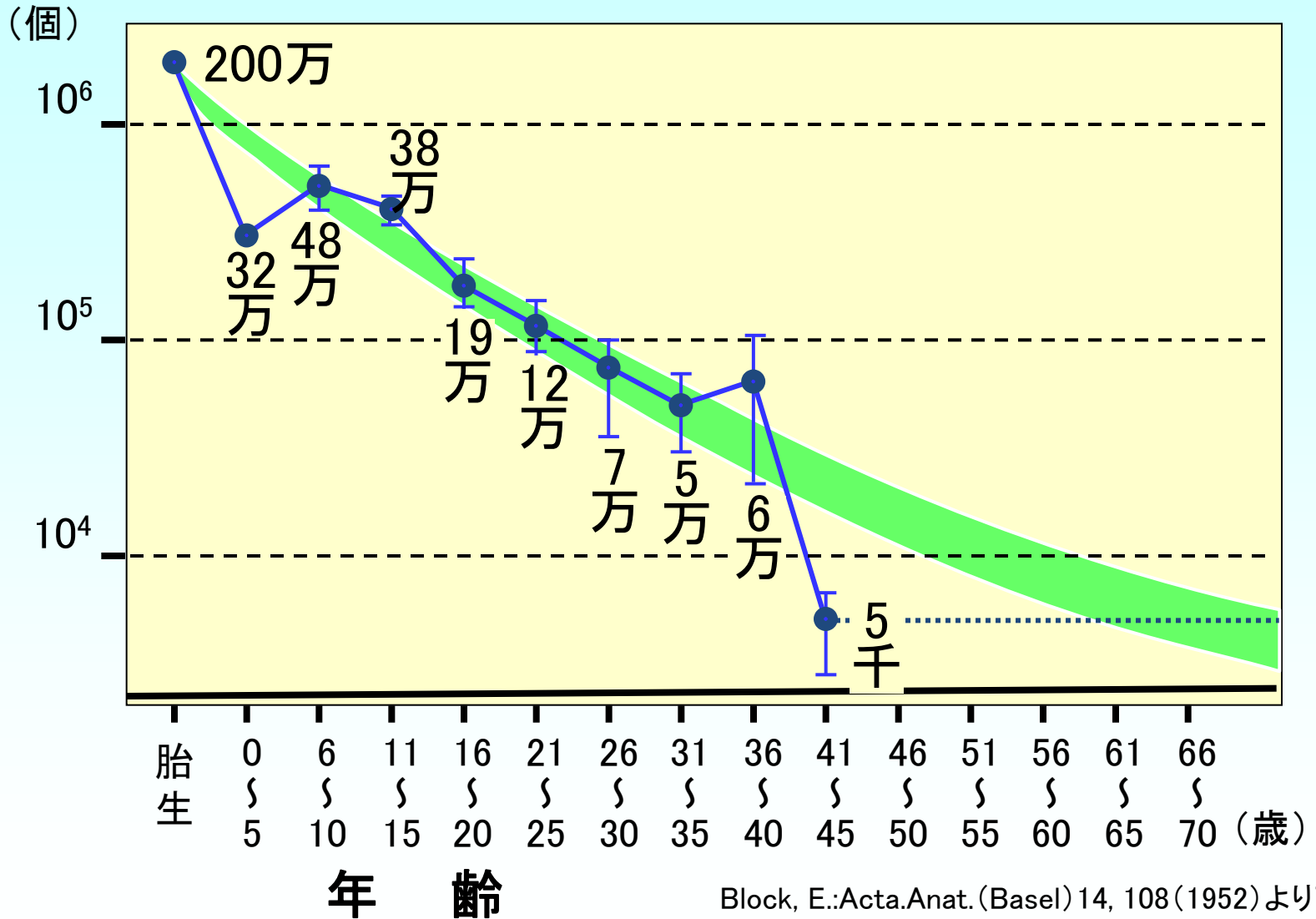
母体年齢別の周産期死亡率(2013年)

出生千対



加齢に伴う卵巣の中の卵子の減少


原始卵胞数



Block, E.:Acta.Anat.(Basel)14, 108(1952)より改変

卵子の特徴

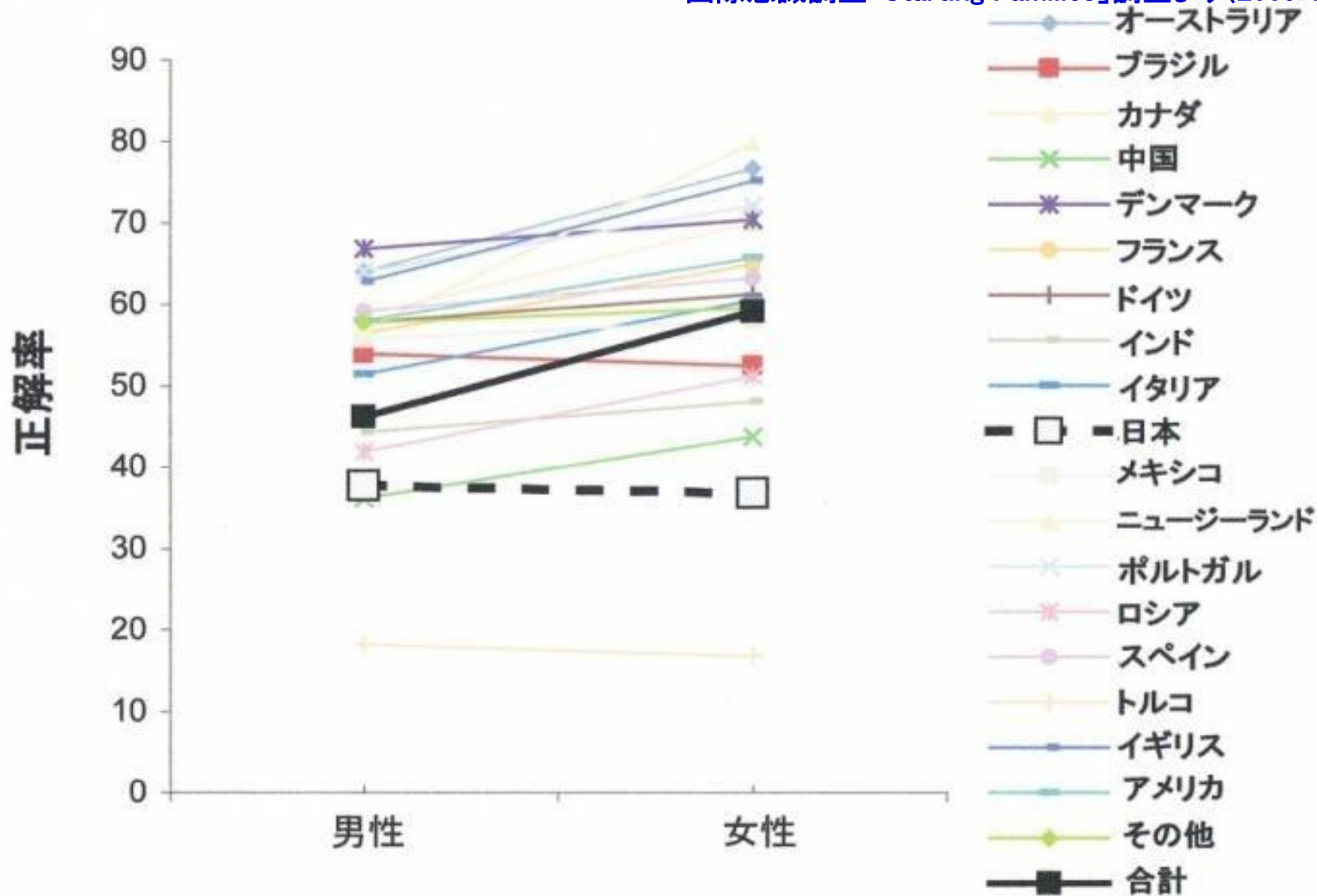
- 生まれたときから卵子がある
- あなたが10歳なら卵子も10歳、あなたが40歳なら卵子も40歳
- 30歳半ばころから徐々に妊娠しにくくなる
- 38歳過ぎると不妊治療に反応しにくい
- 43歳を過ぎると体外受精などの高度不妊治療を行っても、子供を授かることは殆ど無理



日本では
このようなことを知
らない人が多い。

<妊娠・不妊の知識(国別・男女別)>

国際意識調査「Starting Families」調査より(2009-2010年)



調査した18カ国(n=妊娠を望んでいる10,045 人)中、
日本は男性が16位、女性が17位と、妊娠・不妊に関する 知識レベルが低い

思春期女子への教育

- 生き物はすべて自分たちの子孫を残せるように子供をつくる(これを生殖という)行為(事象)があること
- ヒトでは子供を育む構造が女性の体に作られていること
- 思春期にこの構造が完成していくこと
- 月経はその中心となる現象で、大人の女性になった証であること、ある年齢になったら月経はなくなり、生殖不可能になること(閉経)
- 月経には個人差があり、無月経や月経困難症などの症状を伴うことがあること
- 子宮や卵巣の病気(子宮内膜症も含む)になることもあり、生殖にかかわるしくみを健康に維持する必要があること
- 女性の健康は、子供たち、家族の健康につながること
- 生殖の時期はまだ将来にあるが、一方、妊娠・子育てには適齢期があること(卵子のエイジング)
- 望まない妊娠をしないためにどうしたらよいか?を皆で考えること

性教育に携わる指導者へのアンケート調査

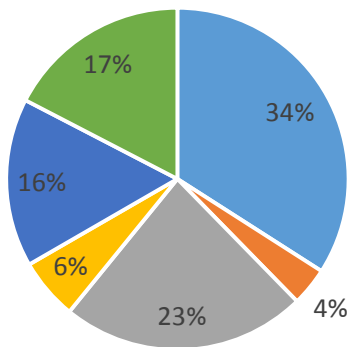
調査期間：平成27年6月10日～6月25日				
調査対象：学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル購入者より				
	医師：	614名		
	中学教職員：	562名		
	高校教職員：	390名		
	計：	1566名		
回収状況：	医師：	125名	(回収率)	20.4%
	中学教職員：	106名	(回収率)	18.9%
	高校教職員：	75名	(回収率)	19.2%
	計：	306名	(回収率)	19.5%
				2015.7.2現在

回答者の背景 (北海道から沖縄まで)

	勤務形態	医療機関	中学校	高校	合計
性別	1. 男	78	0	1	79
	2. 女	47	106	74	227
回答者年齢	1. 20歳代	1	12	6	19
	2. 30歳代	6	23	17	46
	3. 40歳代	23	27	22	72
	4. 50歳代	43	35	29	107
	5. 60歳代以上	51	2	0	53
回答者の職種	1. 教師	0	0	1	1
	2. 養護教諭	0	104	72	176
	3. 保健師	1	0	0	1
	4. 看護師	2	0	0	2
	5. 保健師	0	0	0	0
	6. 助産師	1	0	0	1
	7. 医師	121	0	0	121
	学校医である	43	0	0	43
	学校医でない	71	0	0	71
	診療科：産婦人科	94	0	0	94
	内科	6	0	0	6
	小児科	6	0	0	6
	耳鼻科	0	0	0	0
	整形外科	1	0	0	1
	その他	3	0	0	3
	8. その他	0	2	1	3

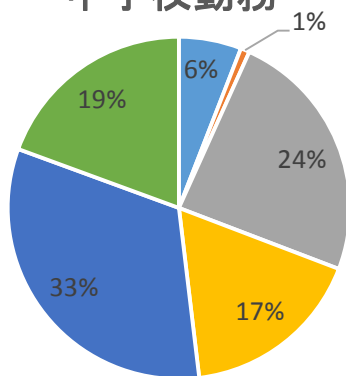
所属する中学・高校では、性に関する指導を誰が行っていますか？（複数回答可）

医療機関勤務



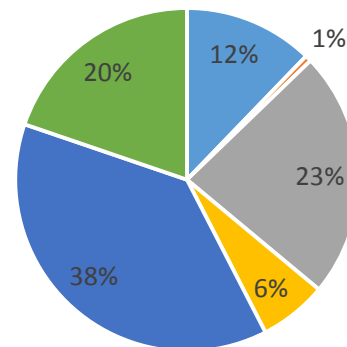
- 1. 産婦人科医
- 2. 産婦人科医以外の医師
- 3. 養護教諭
- 4. 担任の教員
- 5. 保健体育の教員
- 6. その他()

中学校勤務



- 1. 産婦人科医
- 2. 産婦人科医以外の医師
- 3. 養護教諭
- 4. 担任の教員
- 5. 保健体育の教員
- 6. その他()

高校勤務

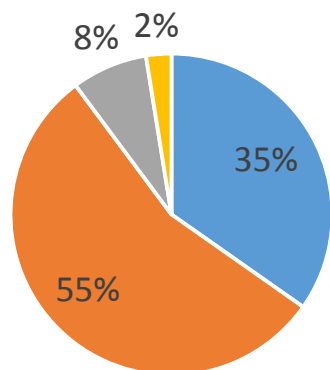


- 1. 産婦人科医
- 2. 産婦人科医以外の医師
- 3. 養護教諭
- 4. 担任の教員
- 5. 保健体育の教員
- 6. その他()

##その他： 助産師・保健師・外部講師・スクールカウンセラー・大学の先生・など

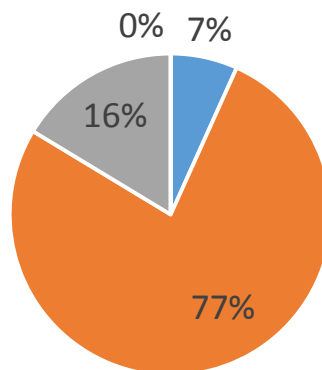
中高生に対する性教育に産婦人科医による授業は必要と考えますか？

医療機関勤務



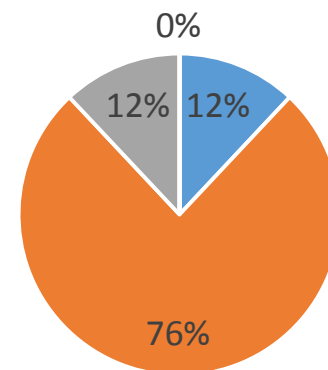
- 1. 必ず必要
- 2. あるのが望ましい
- 3. どちらでもよい
- 4. 必要ない

中学校勤務



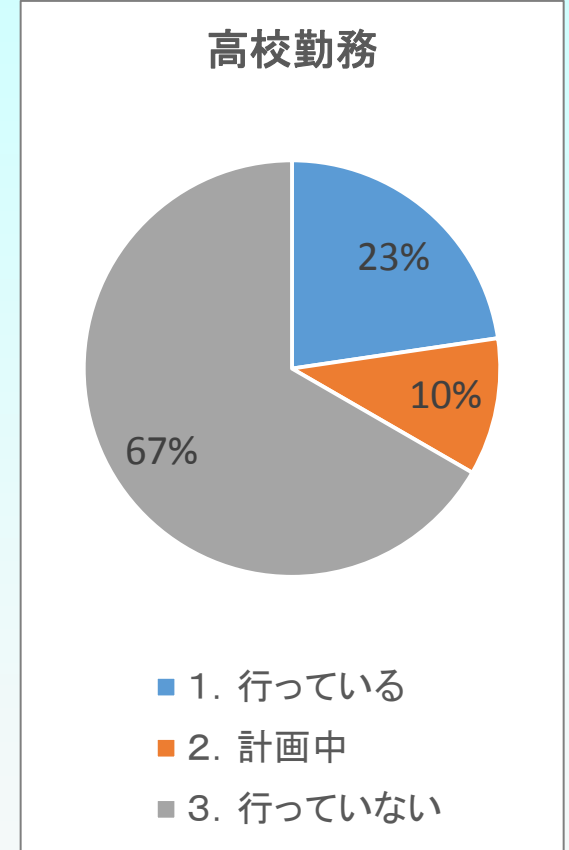
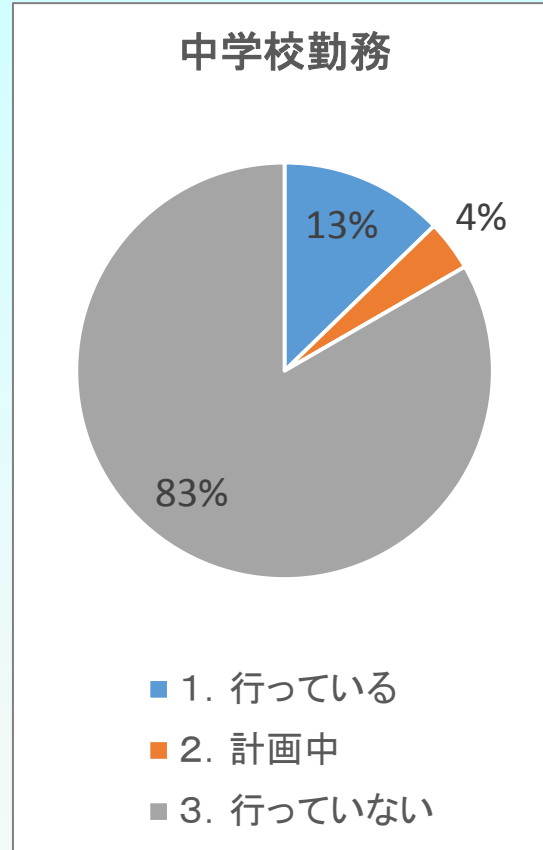
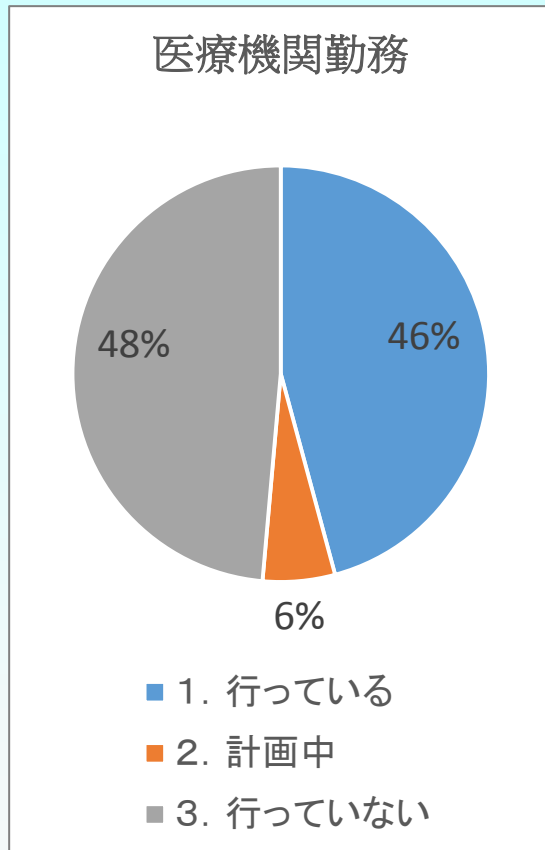
- 1. 必ず必要
- 2. あるのが望ましい
- 3. どちらでもよい
- 4. 必要ない

高校勤務



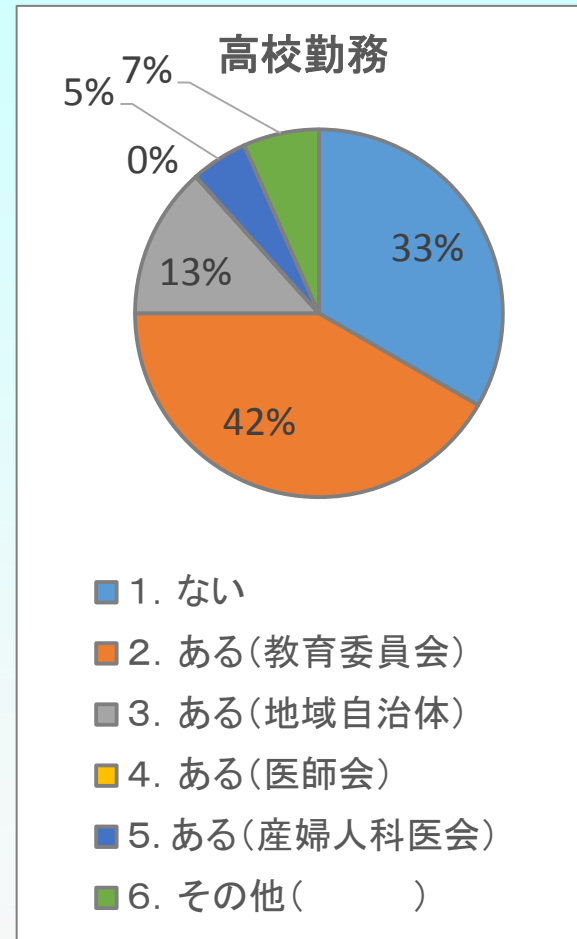
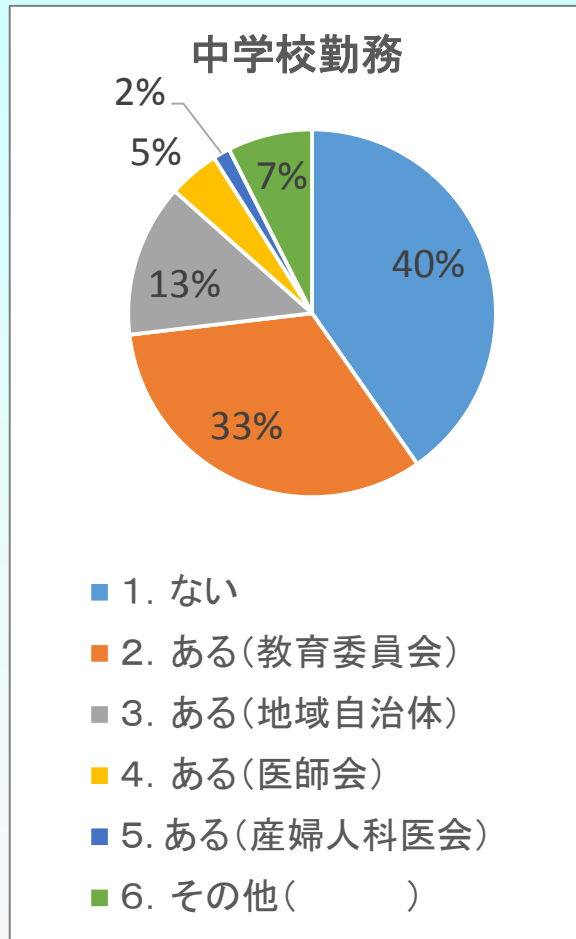
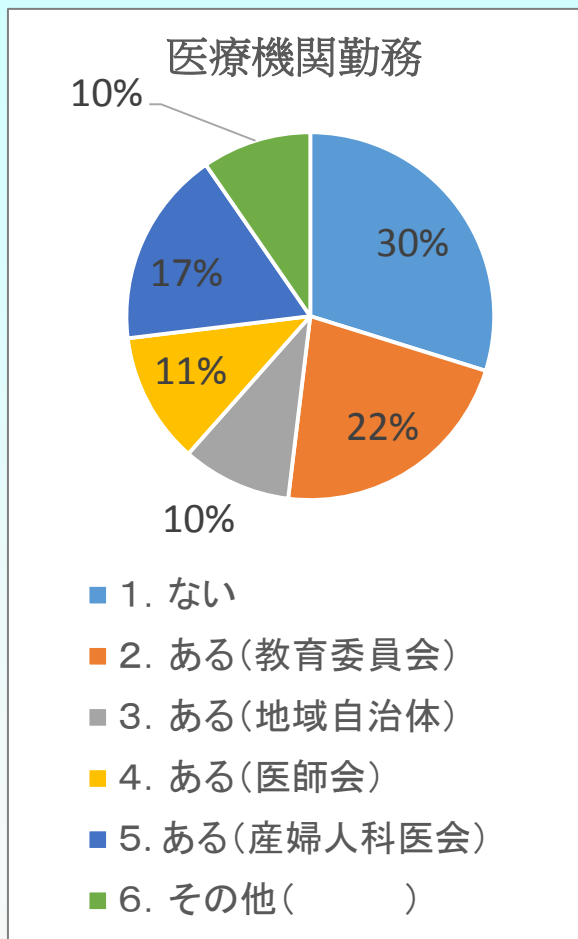
- 1. 必ず必要
- 2. あるのが望ましい
- 3. どちらでもよい
- 4. 必要ない

産婦人科医師による出張授業を行っていますか？



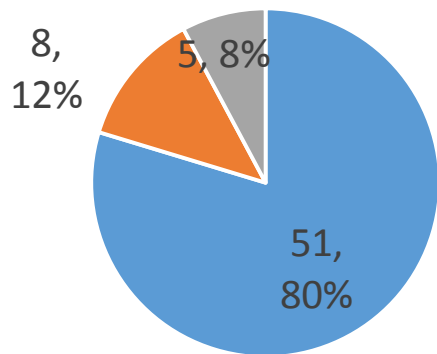
行っていると回答した際の対象と頻度は、男女ともに対象、年1回が最も多かった。

産婦人科医派遣に対する窓口や支援はありますか？



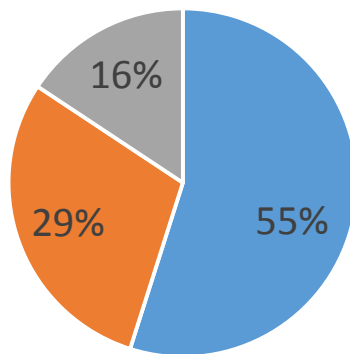
外部講師に対する講義内容(「性交」等、文科省学習指導要領に採用されない表現の使用など)への制限の存在

医療機関勤務



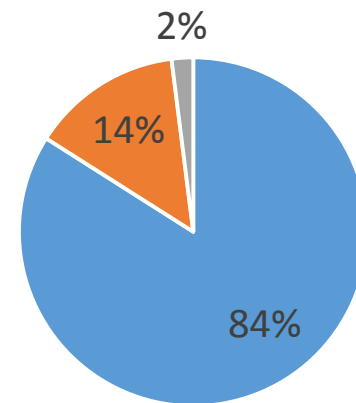
- 1. 講師に一任
- 2. ある(口頭指示のみ)
- 3. ある(校長等による事前内容チェック)

中学校勤務



- 1. 講師に一任
- 2. ある(口頭指示のみ)
- 3. ある(校長等による事前内容チェック)

高校勤務



- 1. 講師に一任
- 2. ある(口頭指示のみ)
- 3. ある(校長等による事前内容チェック)

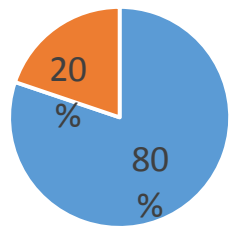
講師に一任であっても、「寝た子を起こさない」ように遠回しな表現を求められる、市から事前に用紙配付され注意事項あり、その範囲内で講師に任されているなど。

校長によって制限するかどうかその内容も違う。制限なしの校長もいる。指導要領に載っていないため、月経痛ということばさえ、使えないところもある。

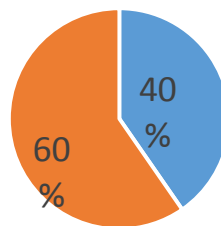
以下の情報提供や指導を行っていますか？

避妊法

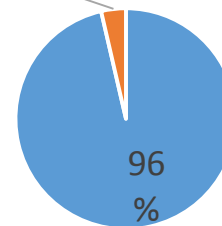
医療機関勤務



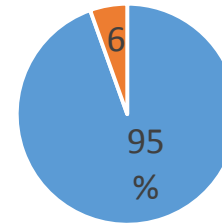
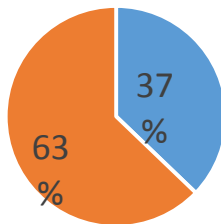
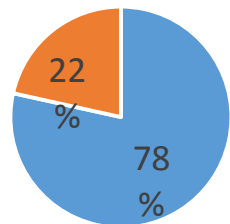
中学校勤務



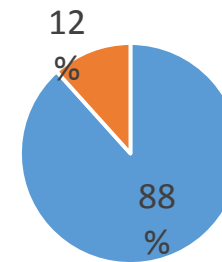
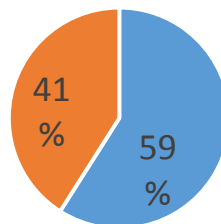
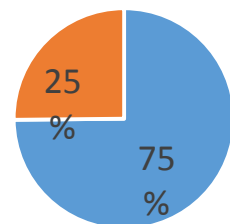
4% 高校勤務



緊急避妊ピル



人工妊娠中絶



● 行っている
● 行っていない

● 行っている
● 行っていない

● 行っている
● 行っていない

意見のまとめ

- 教育委員会、学校からの「産婦人科医による性教育」の要請は少ない。現場以外の上層部は必要性を感じていない。「生徒はいつまでもピュア」と信じている。
- 要請したくてもできない理由は、授業時間の余裕や予算がない、などが多い。特に、公立はやらない傾向がある。私立と公立で差があるのは問題。一方、「ボランティアでやってほしい」と要請されても若い産婦人科医師に勧めにくい。
- 中学生への性教育で、1-3年生すべてを同時に一律に行うことは無理。中学3年生に詳しく教える(義務教育終了前に必要)ことは大切。個人差に配慮することや個別指導は大切で、特に産婦人科医が行うことは有効。小学6年生に卒前集中的に教えているとの意見もある。
- 産婦人科医が学校医に入っているので、うまくいっているとの意見もある。
- 月経に対する正しい知識の提供、妊孕性や妊娠適齢期の話を入れてほしいとの要請は多い。生と性は素晴らしいこと、との視点を入れてほしい。
- 学習指導要領の縛りは大きいのは事実であるが、産婦人科医による性教育はうまくいっているとの回答も、種々の市や県で散見されている。→ 地方によっては種々の縛りがあっても、上手に性教育を行っている。風通しのよい関係があるのか？地域特有の問題に対する共通認識があるのか？など